

第1次

第1時

本時の
目標

様子や気持ち、情景等を表す語句を根拠として挙げながら、物語の設定や場面について考えたり、中心人物に目を向けた初発の感想を書いたりすることが出来る。

主な学習活動

1 題名読みをする。

2 本文と出会う。

3 登場人物や物語の設定等の大枠について考える。

4 中心人物に目を向けて初発の感想を書く。

主な発問・留意点

「スワンレイクのほとりで」何があったのだと思いますか。

○中心人物と出来事に目を向け、物語と出会う前に心の構えをもつことができるようにする。

○範読をする。中心人物がいるところ、「――」で始まる会話は英語であることなど、読み取りにくいところは、途中で確認しながら進めることで場面を理解しやすくする。

歌はどこにいましたか。

○登場人物のいる場所の確認をすることで、物語の大枠を捉えやすくする。

○歌の居場所を確認することで、机の原稿用紙の前にいる場面の額縁構造になっていることに気づくことができるようにする。

歌は最初と最後で違うところがありますか。

○最後は、歌が自信をもって作文に臨んでいる様子に目を向けやすくする。

歌について、初めの感想や疑問を書きましょう。

板書例

スワンレイクのほとりで

小手毬るい

○題名読み 歌に何があったのだろう。

・白鳥に出会った ・じけんが起こった

・歌の心に変化がある

「めあて」 お話のかくにんをしよう。

○登場人物

・歌（中心人物） ・グレン（対人物） ・お父さん

・真琴さん ・ジョージさん

○歌のいるところ

初め つくえの前

・作文が書けなくてなやむ

・書きたいことがいっぱい

中 アメリカでの出来事（思い出している。）

終わり つくえの前

歌は初めと同じ？ ・なやんでいない。

・何があったのだろう。

歌についての感想やきもんを書こう。

がくぶちこうぞう

第1次

第2時

本時の
目標

中心人物の気持ちが最初と最後で大きく変化していることやそのきっかけとなった出来事について、物語の構造や場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

主な学習活動

1 初発の感想を交流する。

主な発問・留意点

歌のことについて書いた初めの感想や疑問について発表しよう。

○教室のほとんどの児童に語らせた。歌の心の変化の具体について意見が重なってきたところで、最初と最後の場面の本文を比較する活動を行い、歌の心にあった迷いが完全になくなっていくことを読み味わいやすくする。

○歌の頭の中の思い出を整理した結果、心を変化させたものがはっきりしたことを板書に位置づけていくことで、アメリカでの出来事が原因であり、詳しく読んでいく必要があることに気づきやすくする。

2 問いをもつ。

○歌の心を変化させたのは何でしょうか。
○歌の心を変化させたアメリカの経験の中でも、どれが特に影響を与えているか考えるようにすることで、学習課題を顕在化しやすくする。

3 問いについて見通しをもつ。

○アメリカでの出来事は幾つありますか。
○アメリカでの出来事が幾つあるかを考えさせることで、あらすじをつかみやすくする。

板書例

「めあて」 歌についての感想やきもんを伝え合おう。

【初め】 歌は作文が書けず、なやんでいる。

・心にはとうかんてきた
・手が止まってしまった
・今のわたしみたいだ
↓ いちばん書きたいことは決まっている。
↓ うまく表せないの、書けずになやんでいる。
↓ 風と雲に今の自分の状況をたどる。

【中】

アメリカでの出来事
歌の心を変化させたもの
* アメリカでのおどろきと発見の連続
* グレンとの出会いと会話
↓ グレンともっと話したい。

【終わり】 歌のなやみはなくなっている。

・もっともつと英語の勉強をして
・この気持ちをいつか、グレンに伝えられたらいいな
・ぎゅっと、力をこめてにぎった
↓ グレンに友達だと伝えたいと思っている
↓ 思いが通じたよさごとと同じくらいの強い思い。

歌の心を変化させたものは何か。

第3時

気持ちの変化のきっかけとなったアメリカでの出来事について、場面の移り変わり結び付けて中心人物の思いを具体的に想像することができる。

①歌の心を変化させたものをはっきりさせる
②歌が最後に書くようとしている内容は何か。

第2次

第4時

本時の
目標

中心人物の思いについて具体的に考えたり、考えを交流したりすることを通して、新たな世界が開けたことに対して一人一人の考えに違いがあることに気づくことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 前時を想起し、めあてをつかむ。 2 自分の考えをもつ。 3 全体で交流する。 4 まとめをする。	○一つ目の学習課題を、めあて「歌の心を変化させたものを見つけよう」として言語化する。 ○アメリカでの出来事の前半（P 128～133 L 7）を主に扱うことを伝える。 ○前時に見つけ出した観点（「驚き」「うれしいこと」「仲が深まったこと」）から、自分が追究したいものを選んで考えていくようにする。 ○個人で取り組む、ペアや少人数で話し合いながら取り組む、個人や少人数の学びを切り替えながら進めるなど、個に応じた学びができる時間を確保する。 ○場面ごとに考えを出し合い、教師が板書に考えを整理していくことで、歌がこれまでに経験したことのない世界とつながっていて、「驚き」や「喜び」に満ちていることに気づきやすくする。 歌は言葉が通じなくていらいらしいのですか。 ○歌は大きな不安があったからこそ、グレンと握手ができた喜びは大きく、その気持ちたちが最終場面までつながっていることに気づきやすくする。	「めあて」歌の心を変化させたものを見つけよう。 歌はアメリカで多くのおどろきと発見をする。 ↓いろいろな人がいっしょに住むのがあたりまえ。 ↓外国人だと思われずに道をたずねられた。 Q アメリカの人は、なぜ歌たちを外国人だと思わないのか。 ・いろんな人種の人たちみんなが、同じアメリカ人。 ・ちがいがあつたことをあたりまえに受け入れている。 グレンは車いすに乗っていた。 ↓歌もちがいをあたりまえに受け入れている。 思わず、ぎゅっと、グレンの手をにぎりしめた。 ↓言葉が通じたことが分かって、とてもうれしそう。 Q 歌は言葉が通じなくていらいらしいのか。 ・友達になれたらいいな。なりたいたい。でもなれるかな。 ・あくしゅのときに不安や心配が全部ふきとんでいる。 ・英語で少しずつ伝わるのが、不安以上にうれしい。 まとめ 歌は、ちがいを受け止めるアメリカのよさに気づき、グレンとの出会いでもちがいをのりこえられて、うれしくなっている。

第2次

第5時

本時の
目標

中心人物の思いについて具体的に考えたり、考えを交流したりすることを通して、新たな世界がひらけたことに対して一人一人の考えに違いがあることに気づくことができる。

主な学習活動

1 前時を想起し、めあてをつかむ。

2 自分の考えをもつ。

3 全体で交流する。

4 まとめをする。

主な発問・留意点

○めあて「歌の心を変化させたものを見つけよう」を確認し、アメリカの出来事の後半（P133L8～P139L4）を主に扱うことを確認する。

○前時と同様、自分が追究したい観点を選んで考えたり、学び方を選んだりできるようにすること、個に応じた学びができるようにする。

○場面ごとに考えを出し合い、教師が板書に整理していくことで、歌がこれまでに経験したことのない世界とつながり、「喜び」や「仲の深まり」にあふれていることに気づきやすくする。

「二人、顔を見合わせて、笑った。」とありますが、今までのやり取りとの違いは何ですか。

○歌は、グレンとの会話で、ものや人を指す言葉そのものの違いに気づく喜びを感じていたが、ここで初めて言葉の意味と使い方のずれのおもしろさを、英語表現を通して感じられた喜びを味わっていることに気づきやすくする。

○深まった読みを整理できるようにする。

児童の反応・板書例

「めあて」歌の心を変化させたものを見つけよう。

○二人が野菜畑に行って話をする。

・ちがいにおどろき、通じ合ううれしさを感じる。
・同じものが国によってちがう名前になることに気づく。
・気づきがふえるたびに、仲が深まっていると感じている。

○二人がスワンレイクのほとりで話をする。

・言葉の意味に目を向けたことで新しい発見をする二人。
・新しい気づきが、仲も深めている。

これは、スワンレイク。——二人、顔を見合わせて、笑った。
Q 今までのやり取りとのちがいは何か。

・英語で二人の心が通じ合って、仲の深まりを感じている。
・言葉の意味のずれのおもしろさを分かり合って笑っている。
・言葉のちがいをのりこえて、通じ合えたうれしさ。

まとめ

歌は、ちがいを知るうれしさや、言葉の意味が分かって通じ合うことのよろこびを仲の深まりとともに感じている。

第2次

第6時

本時の
目標

中心人物の変化を基にもった問いを解決するために、自分の追究したい方法を選んで繰り返し読み直したり、書いている途中の文章を基に交流したりして考えを深めることができる。

主な学習活動

1 前時までの学びを想起し、めあてをつかむ。

主な発問・留意点

特徴的な情景を表す言葉には何がありましたか。

○歌の心の変化が色濃く出ているところには、情景描写や比喩表現など特徴的な表現が用いられていることに気づきやすくする。

○二つ目の学習課題を、めあて「最後の場面で、歌が書こうとしていることを表そう」として言語化できるようにする。

○全文を読み直しながら、歌が伝えたい内容を表すようにする。方法を選択できるようにし、「作文の内容を解説する」「歌になりきって作文を書く」のどちらかで自分が追究したい学びを深められるようにする。

○個人で取り組む、ペアや少人数で話し合いながら取り組む、個人や少人数の学びを切り替えながら進めるなど、個に応じた学びができる時間を確保する。

○特徴的な表現や書き方を見える化しておき、いつでも確認できるようにしておく。

板書例

「めあて」

最後の場面で、歌が書こうとしていることを表そう。

【情景描写・たとえの表現】

・まぶたまで青くそまってしまいそうな湖
・わたしの心は、白鳥に乗って、飛んでいく。
・真つ青だった湖に、黒っぽい雲のかげがうつっていた。
・翌朝は、快晴になった。

...

【書き方のポイント】

方法①作文の内容をかいせつする

わたしは、「歌」が書こうとしているのは、

……ということだと思いました。

なぜかという……という経験を通して

……と考えているからです。

方法②歌になりきって作文を書く

1 心にのこっていることを時間の順に書く

2 いちばん心が動いたところを中心に書く

3 特に心が動いたところだけを切り取って書く

本文を手がかりに

・理由は一つ以上
・本文を根拠に

先に結論

歌の心が動いているところに使われている

3 次時に文章を基に交流することを確認する。

第2次

第7時

本時の

目標

自分の追究したい方法を選び、繰り返し読み直して書いた文章を基に、友達と交流したり全体で話し合ったりして、考えを深めたり題名の意味について考えたりすることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 前時までの学びをを想起し、めあてをつかむ。 2 作品を読み合う。 3 全体で交流する。 4 振り返りをする。	○前時の学びを想起し、自分の文章を読み直した後、めあて「歌が最後の場面で作文に書こうとしていることについて読み合おう」を確認する。 友達の記事のどこをほめたらよいですか。 ○前時に注意して書き進めたこと（書き方が使えていること、本文の言葉を手がかりや根拠にしていること）が評価のポイントに転用できるとに気づけるようにする。 ○評価のポイントを板書に見える化しておくことで、児童が互いの作品を評価しやすくする。 題名が「スワンレイクのほとりで」となっているのはなぜでしょうか。 ○友達の考えがさまざまな場面を根拠としていることに目を向けてきたところで問いかける。最も印象的な場面であり、アメリカでの全ての経験が結び付いて新たな世界が開けた場面であるからこそ、題名になっていることに気づくことができるようにする。 ○単元全体の学びを振り返る場を確保する。	「めあて」 歌が最後の場面で作文に書こうとしていることについて読み合おう。 【書き方のポイント】 ↓ ひょうかのポイント】 ※第6時で提示した 【書き方のポイント】を再掲 Q どの場面も大切そうなのに、なぜこの題名なのか？ ・見た目のちがいを受け入れることの大切さ ・ちがう言葉で通じ合えるうれしさ ・ちがう言葉でも同じものを表すことのおもしろさ ・言葉の意味を考え、ちがいを分かり合えるうれしさ ・ちがいをこえて、仲が深まることのうれしさ 「スワンレイクのほとりで」Ⅱ全部が結び付く 題名には深い意味がある

第3次

第8時

本時の
目標

物語の設定や登場人物の気持ちの変化がありそうなことについて具体的に想像したり、読み取ったことの交流を通して考えを広げたりして、読書への意欲を高めることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	板書例
1 ブックトークを聞く。 2 めあてをつかみ、紹介された本の最初の部分を読む。 3 気づいたことを交流する。 4 読書活動へつなげる。	○ 司書と連携を図り、「この本、読もう」で紹介されている本についてのブックトークを行う。「スワンレイクのほとりで」と同様に「新たな世界とのつながり」ができる話であることに目を向けられるようにする。 どれが読みたいですか。 ○ めあて「自分が選んだ本を読んで、『新たな世界とのつながり』を見つけよう」をつかむことができるようにする。 ○ 一人に一編、導入部が手渡せるようにコピーを用意しておくことで、一人一人が自分の読みたい本を選択し、意欲をもって読み進めることができるようにする。 「スワンレイクのほとりで」と似ているところはありましたか。 ○ 「新たな世界とのつながり」を意識して話し合うことができるようにする。 ○ 続けて読むことも、別の本を読むこともできるようにし、活動を選ぶことができるようにする。	「めあて」 自分が選んだ本を読んで、「新たな世界とのつながり」を見つけよう。 「スワンレイクのほとりで」 ちがいを受け入れたり、ちがいの先の意味に気づいたりすると、新たな人とのつながりができる。 ○ 「新たな世界とのつながり」がありそうな物語 「空にむかつてともだち宣言」 中心人物 あいり ミャンマーから来たナーミン一家。まだまだ会話もできない。これからどうやって関係をつくるのか。 「リターン！」 中心人物 イツキ めんどくさがりでひっこみ思案。同じはんの仲間とは、まるであわない。これで関係をしてくれるのか。 「バトン」 中心人物 絵をかくのが好きな圭 えんりよのないイラン人のハッサン。人としやべらない朝子。どうやって関係をつくるのか。 ※歌とちがって、まだまだ分かり合えていない。 ↓これから話がどうなるのか楽しみ。 ※どれも題名に意味がありそうだが、まだ分からない。

■ 本教材のポイント

この物語文は、多くの子どもにとってイメージすることが難しいと考える。国際的なつながりが増え、外国籍の児童が教室内にいることは、今や決して少ない話ではないが、自らが海外に出て行き、別の文化や人と触れ合うような経験が一般的とはいえない。だからこそしっかりとイメージを膨らませ、国際理解教育の内容にも迫っていきたいところである。範読段階で、英語でやり取りをしているところなどは、補足をしないと理解が難しいと考える。

違いを受け入れ、それをあたりまえとするというものの見方は、日本人の多くが苦手とするところである。中心人物の歌は、外国人であるグレンと言葉の壁や文化の違いを越えながら心を通わせているが、グレンが車椅子生活をしているという設定については、あまりにも自然に受け入れられていて、物語の中でほとんど話題になっていない。歌はこの段階で既に違いを受け入れるということが自然とできるようになっていく。児童の実態と比べて、設定から違和感を覚えている子が存在することを意識して読んでいく必要があるだろう。歌もアメリカで多くの発見をする中で、車椅子であることの違いを自然に受け止められるように成長していただくと考えることができる。

歌は、文化の違い、言葉の違いを乗り越えることを喜びに変え、最終的に外国の言葉を介して通じ合える喜びを得て、将来の夢をはっきりと描いている。大きな心の変容の中身をしっかりと読み味わえるようにしたい。

■ 授業を進めるうえでのポイント

第1次では、児童が追究すべき問いを自分たちでつかむことを大切にしたい。初読段階ではイメージの湧きにくいところがあるが、最初と最後の額縁構造が確かめられると、歌の悩みが解消されていることに目が向きやすい。

「なぜ解消されたのか」「解消された原因は何か」という疑問を問いの言葉として顕在化させると、児童の追究課題となっていくだろう。追究と合わせて、あらすじの確認や場面分けの作業を通して何度も全文を読み直すようにしていくことで、イメージも膨らむと考える。

第2次は、児童のもった二つの問いを追究していく展開である。一つ目の問いを解決するために、額縁構造の中の部分を二つに分け、丁寧に取り上げていくことで、歌の気づきの質の変化を読み取りやすくする。そして、二つ目の問いの解決のために、再び文章全体を読み直しながら書き進めるようにすることで、異なる質の気づきが一つに結び付き、高まっていることを読み味わいやすくしたい。読み味わった結果、情景描写や題名などの表現の工夫にも目を向けられるようにしたい。児童には追究する観点や学び方を選択できるようにし、個別最適な学びを成立させたい。学習記録はICT活用を選択肢に入れた展開が考えられる。

第3次では、読書活動に開く展開を用意している。読み始めて終わりではなく、最初のまとまりまでを読んで中心教材とのつながりや今後の展開の見通しを話し合うことで、読書への意欲を高めて学習を終えられるようにしたい。